

別表2 <官展における日本画の寸法制限等>

年 月	当該年の官展	主な内容（大正15年以降は寸法に表装も含む）		
		点 数	高 さ	幅
明治40年6月	第1回文展	3点以内	なし	
明治44年6月	第5回文展		高さや幅が過大で陳列不可能なものは、表具換え、または陳列しないことあり。	
大正2年5月	第7回文展		高すぎて陳列が不便なものは表具換えする。	1点幅4間(7,272cm)を超えてはいけない。
大正6年5月	第11回文展			1人の占める壁面は幅4間までとする。2点出品して4間を超える時は陳列替えをすることあり。
大正8年9月	第1回帝展	2点以内	1点10尺(3030cm)以内	1点15尺(4,545cm)以内。1人の占める壁面は15尺以内、超える時は陳列替えをすることあり。
大正15年5月	第7回帝展			1点9尺(2,727cm)以内。1人の占める壁面は9尺以内、超える時は陳列替えをすることあり。
昭和2年5月	第8回帝展			1点7尺(2,121cm)以内。1人の占める壁面は7尺以内、超える時は陳列替えをすることあり。
昭和5年2月	第11回帝展			1点12尺(3,636cm)以内。1人の占める壁面は13尺(3,939cm)以内、超える時は陳列替えをすることあり。
昭和10年5月	改組帝展			1点13尺(3,939cm)以内。招待は25尺(7,575cm)以内。
昭和11年3月	文展			受鑑査者13尺以内、芸術院会員と審査員25尺(7,575m)以内、無鑑査7尺以内、無鑑査で7尺を超えるものは審査。
昭和12年6月	第1回新文展			7尺以内
昭和13年7月	第2回新文展			1点
昭和15年5月	奉祝展	10尺以内	7尺以内	
昭和16年8月	第4回新文展			

別表3 <『苦楽』名作絵物語>

No.	発行年月	巻	号	題名	著者・監督等	画家	
1	昭和21年						
	11月	1	1	坊っちゃん	夏目漱石	中川一政	
2	12月	1	2	たけくらべ	樋口一葉	木村荘八	
3	昭和22年						
	1月	2	1	女優ナナ	エミール・ゾラ	シヤス・ラポルド	
	2月	2	2	瀧口入道	高山樗牛	江崎孝坪	
	3月	2	3	風流懺法	高濱虚子	中澤弘光	
	4月	2	4	にごりえ	樋口一葉	木村荘八	
	5月	2	5	今戸心中	廣津柳浪	伊東深水	
	6月	2	6	羅生門	芥川龍之介	石井鶴三	
	7月	2	7	ヴェニス詩	アルフレッド・ド・ミュツセ 鈴木信太郎訳	(不詳)	
	8月	2	8	牡丹燈籠	三遊亭圓朝	木村荘八	
	9月	2	9	高野聖	泉鏡花	川端龍子	
	10月	2	10	三四郎	夏目漱石	田邊至	
	11月	2	11	金色夜叉	尾崎紅葉	鏑木清方	
	12月	2	12	お艶殺し	谷崎潤一郎	中村岳陵	
	15	昭和23年					
1月		3	1	腕くらべ	永井荷風	山下新太郎	
2月		3	2	多情佛心	里見淳	小穴隆一	
3月		3	3	春泥	久保田万太郎	石井鶴三	
海外版		3月	3	春泥	久保田万太郎	石井鶴三	
18		4月	3	日本橋	泉鏡花	鏑木清方	
海外版		4月	3	日本橋	泉鏡花	鏑木清方	
19		5月	3	春琴抄	谷崎潤一郎	和田三造	
20		6月	3	五重塔	幸田露伴	川端龍子	
別冊		7月	—	(1)	—	—	
21		8月	3	7・8	ビュビュ・ド・モンパルナス	シャルル・ルイ・フィリップ	佐藤敬
22		9月	3	8	雁	森鷗外	木村荘八
23		10月	3	9	蝙蝠の如く	有島生馬	有島生馬
海外版		10月	3	9	蝙蝠の如く	有島生馬	有島生馬
24		11月	3	10	虞美人草	夏目漱石	小穴隆一
海外版		11月	3	10	虞美人草	夏目漱石	小穴隆一

別表3 <『苦楽』名作絵物語>

No.	発行年月	巻	号	題名	著者・監督等	画家
	昭和23年					
臨時増刊	11月	—	(2)	—	—	—
海外版	12月	3	11	ボヴァリー夫人	ギュスターヴ・フローベール	小磯良平
	昭和24年					
25		4	1	ボヴァリー夫人	ギュスターヴ・フローベール	小磯良平
海外版	1月	4	1	霧笛	大佛次郎	木村荘八
26	2月	4	2	霧笛	大佛次郎	木村荘八
海外版	2月	4	2	阿部一族	森鷗外	石井鶴三
27	3月	4	3	阿部一族	森鷗外	石井鶴三
28	4月	4	4	カルメン	プロスペル・メリメ作、 杉捷夫訳	(不詳)
29	5月	4	5	細雪	谷崎潤一郎	中村貞以
臨時増刊	5月	—	(3)	好色五人女	井原西鶴	中村貞以
30	6月	4	6	爛	徳田秋聲	木村荘八
臨時増刊	7月	—	(4)	—	—	—
31	7月	4	7	魚玄機	森鷗外	小杉放庵
32	8月	4	8	地獄變	芥川龍之介	吉村忠夫
33	9月	4	9	—	—	—

【註】

- 1 靈雲寺そばの家は六畳と四畳半、玄関二畳。しかし、更に家賃の安い、切通の路次の中、四軒長屋の一軒へ転居している。「新花町の家」『鏑木清方集 二 明治追懷』134頁。
- 2 ここの、大作は大画面の作品とする。
- 3 「大正のあゆみ(一)」『続こしかたの記』9頁。制作中《墨田河舟遊》は立てたまま画室を出て寝ると、自分の分身が立ち尽くしている思いがして眠れなかったという記述もある。「大正のあゆみ(二)」『続こしかたの記』30頁。
- 4 (各)縦168.0、横362.0cm、第8回文展。
- 5 作品は焼失している。下絵の寸法は、(各)縦182.0、横368.0cm、第9回文展。
- 6 (各)縦170.5、横365.3cm。
- 7 (各)縦191.3、横364.0cm、第11回文展。
- 8 縦187.0、横77.5cm、第12回文展。
- 9 (各)縦173.0、横374.0cm、第2回帝展。
- 10 縦167.6、横98.6cm。
- 11 縦185.2、横100.8cm、第4回帝展。
- 12 縦219.0、横83.5cm、第6回帝展。
- 13 縦139.0、横290.0cm、郷土会第5回展。
- 14 「卓上芸術」とは清方が唱えた作品様式で、大作中心で壁面に掲げ、ざわついた「会場芸術」や、床の間に飾る「床の間芸術」とは別に、人交ぜもせず卓上に伸べて、その細かい筆遣いを味わう芸術で、画卷や画帖、挿絵や口絵などの複製も含めている。
- 15 3面、縦一尺三寸、卷子、「雪十趣」個展。
- 16 8面、縦50.1、横64.1～104.7cm、金鈴社第6回展。
- 17 13面、(各)縦25.1、横34.0cm、郷土会第12回展。
- 18 12面、鏑木清方個展「長唄十二番」。
- 19 12面、(各)縦31.0、横43.0cm、郷土会第13回展。
- 20 10面、(各)縦23.9、横35.8cm、淡如会第4回展。
- 21 縦53.8、横計489.0cm、七絃会第4回展。
- 22 15面、(各)縦26.2、横35.5cm、六潮会第3回展。
- 23 10面、(各)縦24.0、横33.5cm、関尚美堂新作画展。
- 24 6面、(各)縦38.0、横49.0cm、七絃会第10回展。
- 25 10図、(各)縦34.0、横42.5cm、珊瑚会第7回展。
- 26 「帝展はやりやまひ」『藝術』大正15/11/15『鏑木清方文集 七 畫壇時事』27-28頁。
- 27 「夜蕾亭雜記(五)」『續こしかたの記』295頁。
- 28 『FOUR JAPANESE PAINTERS』JAPAN PHOTO SERVICE 昭和15年。
- 29 矢来町の画室を模した雪ノ下の画室の部屋の配置からの推測による。
- 30 畳一畳を一間とみなし、換算した。
- 31 「疎開日記抄(一)」『續こしかたの記』318頁。
- 32 「吉田五十八」伊藤ていじ 『吉田五十八作品集』吉田五十八作品集編集委員会 新建築社 1980。「山口蓬春の画室について」岡田修子 『山口蓬春記念館 研究紀要 第二号』山口蓬春記念館 平成13年。
- 33 「中村勘三郎邸」『建築家吉田五十八』167頁 砂川幸雄 晶文社 2001年。